

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期
ビジネスインテリジェンス特論		Z 128	1 単位	2 学期
Business Intelligence				
科目分野		課程領域		
経営戦略		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
村上 敏也	-	メールにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)		
ビジネス分析要論	ビジネス分析特論	戦略思考要論
オペレーションズマネジメント要論		

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

今日の高度化がすすむ情報社会では、企業の意思決定権がますます再配分され、消費者や現場の従業員による意思決定プロセスへの参加が加速しています。こうした環境において、データ分析の果たす役割はますます重要なものとなってきています。一方で、新しい事業や組織で活躍する人財には、自ら問題を発見・解決するベンチャー起業家的な素養に欠け、チームワークによって成果を出しつづけるための科学的な意思決定の技能が求められてきています。そこで本科目ではまず、統計および数学の知識について、表計算ソフトなどを活用しながら体験的に直観を磨き、データの収集・加工、データの特性の記述に慣れることを目指します。その後、データ分析環境の歴史的な潮流にふれ、またデータの取得・加工・分析をおこなうなどの演習をつうじて、データ分析に基づいてチームワークで意思決定を改善するために必要な態度と技能、あるいは実際の組織においてデータを活用していくうえでの課題について体験的な理解を深めていきます。

到達(修得)目標

定性・定量的データを経営の現場で意思決定とコミュニケーションの改善にいかす実践力を身につけるための基本となる知識や手法について体験的に直観をみがき、データにもとづく意思決定に慣れることを目指します。また、今後の経営において必要となるデータ分析リテラシーおよび相互に学び合う態度(学びの共同体)の涵養を目指します。

受講対象者

定性・定量的データをチームワークでの意思決定に活用したいと考える全受講生

履修上の注意事項やアドバイス

本講義は、これまで統計やデータ分析について、ほとんど知識・経験のない方を想定して、講義とケースメソッドまたは演習により授業を進めていきます。統計、数学、あるいは数字に不慣れであっても、積極的に質問や発言をして、各自が持参するノートPCで実際に自分の手を動かしてみようとする好奇心と行動力が参加者には強く期待されます。演習は、表計算ソフト(MS-Excel)の使用を予定しています。この科目では単に教わることは期待せず、教員を含む他の参加者から情報を引き出し、また自分の考えや情報を他の参加者に提供し、相互の学びに貢献するチームワークを大切にしてください。講義による受け身の授業ではありません。なお、実際の授業計画および演習課題の内容は履修者の関心や経歴に応じて変更することがあります。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー	○	Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース		教育技法	マテリアル / ツール
1	独自コンテンツの講義	講義	PPT
2	講義資料に基づく演習	演習、グループワーク	適宜配布
3	組織的なデータ分析力の活用	ケースメソッド(グループ/クラス討議)	当日配布
4			
5			
6			
7			

8			
評価の方法			
(総合評価項目と割合)		評価の要点	
クラス貢献(討議・ディスカッション)	70%	クラス貢献は、グループワーク、グループ討議、クラス討議における、発言内容の正誤ではなく、「参加者相互の学び」に貢献する発言・態度を評価します。各日の授業終了後に、個人ワーク、グループワーク、気付き・学び、自身のクラス貢献などをメモした、授業レポートを提出して頂きます。授業レポートは、A4一枚程度を想定しています。	
授業レポート	30%		
合計	100%		

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	『分析力を武器とする企業』トーマス・ダベンポート(日経BP社) ※その他、講義資料を配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	『Head Firstデータ解析』Michael Milton(オライリージャパン) 『事実に基づいた経営』ジェフリー・フェファー、ロバート・サット(東洋経済新報社) 『分析力を駆使する企業』トーマス・ダベンポート(日経BP社) 『データ・アナリティクス3.0』トーマス・ダベンポート(日経BP社)	
参考URL		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	データと情報 ビッグデータとデータサイエンス コンピュータとデータ活用手法の進化	表計算ソフトをご持参ください	村上	90分
	データ分析・統計の数学と計算力の補完 統計学のフレームワーク	基礎的な統計用語について、 入門書等を眺めてきてください		90分
	イベント	個人ワーク、グループワーク、クラス討議		
3.4	関数と表計算ツール、統計ツール	表計算ソフトをご持参ください	村上	90分
	分析の枠組み 仮説・検証	講義資料の該当箇所を自習し てきてください		90分
	イベント	エクセルによる演習、グループワーク		
5.6	組織におけるデータ分析力の涵養	テキストを読んできてください	村上	90分
	意思決定の質、情報の質			90分
	イベント	ケース教材:組織的なデータ分析力の活用(当日配布)		
7.8	データの種類と回帰分析	講義資料の該当箇所を自習し てきてください	村上	90分
	テキストマイニングの演習	講義資料の該当箇所を自習し てきてください		90分
	イベント	エクセルによる演習、グループワーク		

- ※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。
- ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
- ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。